

第 33 回 武蔵野文学賞「高校生部門」 評論部門

今年度は、「武蔵野の部」、「自由の部」の二つの部門で評論を募集しました。選考は、武蔵野大学文学部日本文学文化学科の専任教員で分担して予備選考を行ったのち、全員で協議する方式で行いました。その結果、最優秀賞、審査員特別賞、優秀賞のいずれも「該当なし」とする結果になりました。

「武蔵野の部」では、国木田独歩「武蔵野」の自然描写の表現を分析し、作者の描きたかったことを抽出する評論が、「自由の部」では、夏目漱石「夢十夜」の一部をジェンダーの視点から読み解く評論、谷崎潤一郎の作品の魅力を考察する評論が、最終選考の対象となりました。それぞれに評価すべき点は見出されたものの、内容および形式に不十分な点も認められ、上記の結果となりました。

評論という営為は、さまざまな事物の意義や魅力を、多くの読者に共有できるかたちで示し、その豊かさを味わい、確認することを可能にするものです。そこでは、独自の視点を打ち出すことと同時に、客観的な事実を冷静におさえ、説得力をもって論理を積みあげることも大切です。

武蔵野文学賞「高校生部門」の評論部門は、これからも、高校生の皆さんの鑑賞や思索を受けとめる場でありたいと考えています。来年度も多くの評論が寄せられることを期待します。

(大島武宙)